

全国木材資源リサイクル協会連合会

平成27年度 第2回調査広報委員会 議事録

開催日時 平成27年6月18日(木) 13:00～14:45

場 所 木材会館 6階会議室

出席者

全国木材資源リサイクル協会連合会	澤地 義雄 委員長 (連合会専務理事)
住友林業(株)	矢吹 賢二 委員
フルハシEPO (株)	古島 千尋 委員代理 (仁木 智之 委員) (東海協会兼務)
萬世リサイクルシステムズ(株)	桑野 俊 委員
ホクザイ運輸(株)	芦塚 雄介 委員
住友大阪セメント(株)	水木 康寛 委員代理 (中塚 誠 委員)
JFEエンジニアリング(株)	山田 眞樹 委員
関東協会専務理事 (地域委員)	原 信男 委員 (連合会事務局長)
北日本協会事務局	三浦 広和 委員 (株)クリーンシステム
近畿協会事務局	三砂 和浩 委員 木材開発(株)
中四国協会事務局	岡崎 博紀 委員 (有)赤碕清掃
九州協会事務局	河野 秀彦 委員 中山リサイクル産業(株)

(欠席委員) (株)エコグリーン 山口 良治 委員

(報道関係) 日刊木材 寺田 真一郎

(事務局) 椎津まゆ美 (連合会)、十川 有子 (関東協会)

<会議概要>

1 委員長挨拶

お忙しい中、第2回目の委員会にご出席いただきありがとうございます。

本日は、この後、全国大会実行委員会を控えているので時間がない中、充分ご検討をお願いする。

(委員の出席状況を報告し、仁木委員の代理として、古島氏が、中塚委員の代理として、水木氏が出席したので自己紹介があった。)

2 議事要旨

・前回第1回委員会議事録の確認を行った。特に意見がなかったので、原案のまま連合会ホームページ(会員専用)に掲載することとした。

(1) バイオマス発電事業のモデルプランの策定について（原 事務局長）

- ・前回委員会において、モデルプランを11月19日を目途にまとめていくこととしている。
- ・各種の研究レポート等でモデルプランとして5,700KW、年間の木くず燃料使用量が6万トンの程度以上の規模の施設が採算性があると提示されている。
- ・新規に75件の発電設備がFITの認定を受けている。
- ・廃木材のリサイクルの状況、発生状況等を整理した。
- ・日本の森林の課題として2020年の木材の自給率の政府目標が50%となっているが、まだ間伐材の需要が足りない。
- ・発電だけでなく、熱電併給のシステムが大事であるということなどが示されている。

2番目として、バイオマスモデルプラン策定に当たってどのようなことを考えたら良いのかと云うことを整理した。

- ・各方面から種々のモデルが提示されている。
- ・しかし、これらと一線を画す、われわれチップ生産者ならではのモデルプランを示さなければいけない。
- ・一つは、既存の事業者を守ることが大事なことです。
- ・しかし、現行でも季節変動があり、余剰時にも対処できるものがないかといったことがある。
- ・例えば、製材市場が現在あり、これらと同じように木質チップ市場を創設出来ないか。
- ・間伐材を活用するために、搬出システムの構築、あるいは、森林計画を作れない民有林での策定条件の緩和
- ・未利用材の活用で、計画通り進んでいるかという確認が十分できていないことから、証明方法の見直し、トレース方法の確立が必要なこと
- ・環境面から、木材のカスケード利用の徹底が言われているが、どの位環境面での貢献が出来るのかという環境貢献指標作り
- ・各省庁等のデータ公開と活用方法の検討
- ・さらに、業界の枠を超えた対話の環境作り
- ・輸入ペレットやPKS等の材料別の留意点や解決策

3番目として、小規模バイオマス発電が期待されているが、大規模や中規模発電と小規模熱電併給施設の長所・短所、技術水準や今後の見通しはどうか等の検討課題があり、検討に当たっての視察時の留意点などがある。

これらを参考にこのような検討事項が必要だとか、この視点はいらぬ等のご意見をお願いしたい。

（質 疑）

- ①（矢吹 委員）：他のモデルと一線を画す全国連合会ならではのモデルプランというのが一番難しい。どういう視点で検討するのか。

- ② (桑野 委員) : FIT はそもそも山から伐採した木材を燃料として活用するという狙いで発足した。しかし材料が同じ木である以上、建設廃材が使えることも事実である。
今、建設廃材で 350 万トンほどの燃料チップの供給があるが、さらに 100 万トンが必要といってもとうてい無理な話しである。
こうしたことから、建設廃材を扱う我々としては、一線を画して、あらためて FIT の当初の狙い通り、山から出る木を利用するよう提言しなければならない。
- ③ (水木 委員代理) : チップのユーザーとして、生産のために必要なチップをきちんと供給してもらえるかが一番の関心事。
今の FIT 制度の施行に伴い、将来、2 年先、3 年先に大丈夫なのかと危惧する。
先の状況がしっかり見えるようにしていただきたいというのがチップユーザー、既存事業者としてチップ生産者側の立場、要望である。
既存事業者を守るという姿勢をきちっと出して貰いたいとの立場だ。
- ④ (矢吹 委員) : 将来的に建設廃材の増加が見通せない中で、既存の事業者に影響を与えないために、連合会として、純粹に未利用材だけのモデルプランを作ることになる。
- ⑤ (芦塚 委員) : そもそも、誰に対してこのモデルプランを提示するのか。
誰でも見ることが出来るものか、関係者に対して出すものか。
- ⑥ (原 委員) : 連合会として誰に対して出すのが効果的か。国に対して要望するときのバックボーンとしてしっかり使えるものにすることや、FIT 制度の矛盾点をきちっと提言するとかが考えられる。 国に対してなのか、既存事業者に対してなのか、むしろ自分たちチップ生産者の姿勢を打ち出すためなのか、今の時点で決めているわけではない。
- ⑦ (三砂 委員) : 今まで電力会社が電気を売って当たり前の世界だったのが、電力供給の自由化になって、その自由化に対応して、民間でバイオマスや太陽光の FIT による電力供給をしていくという立場で言えば、チップの生産、電力生産により電力の代替え、置き換えといった状況の中、わかりやすい情報提供をしていく、将来に向かって電力需要に対するあり方を提言するということが考えられる。
- ⑧ (矢吹 委員) : 将来、建廃の発生量が増えない中、国、FIT の発電者、これから FIT を計画している事業者に対して提言する。特にこれから建廃を使って FIT を計画している事業者に対して、建廃利用の厳しい状況を提示する提言を出すということが考えられる。
- ⑨ (三砂 委員) : チップの活用について電力だけに限らず、エネルギー全体に対して踏み込むという考え方もある。

⑩ (原 委員) : 木を生かす立場からは、エネルギー全体を考えると効率が一番良いのは熱電併給であると言われている。大規模発電、中規模発電の長所と短所に踏み込んで、結局は熱電併給が良いとの結論もあり得る。そうすると、未利用材を地域の山林から持って来なければならないから、そうするとどうすれば良いのかという論理展開になる。

⑪ (三砂 委員) : 一遍使ったものを又使うのがリサイクルだが、F I Tで未利用材、間伐材を使うというのはリサイクルとは異なる。

⑫ (原 委員) 一方で、間伐材の活用による山林再生もリサイクルに通ずるとも考えられる。

⑬ (三砂委員) リサイクルを大きく捉えると、そうした考えもある。

⑭ (原 委員) : 今まで出てきた、国、F I Tを実施中の事業者、これからF I Tを行おうとして計画している事業者等に提示すること、既存事業者をどのように守っていくのかといった視点からモデル計画を検討していくと云うことでいかがか。

なお、検討に当たって、若手の、北日本の三浦委員、東京では仁木委員、九州の芦塚委員の3人と骨格作りをして、次回委員会にこんな構想でどうかというものを示していきたい。

⑮ (委員長) : モデルプランを検討するに当たり、F I T事業の事例視察を行うことになっていたが、どのようにするか。

(桑野 委員) : 九州に行くことになっているが、まだ具体的に決まっていない。

(原 委員) : それでは具体的に誰が行くか決めることとしたい。

九州は、桑野委員、河野委員、芦塚委員、原で視察、施設は王子製紙(日南市で25,000KW、間伐材を主に使用)

長野の飯綱(いづな)は、三浦委員、矢吹委員、桑野委員、三砂委員、河野委員、委員長で視察することとする。時期は7月実施をめどに調整することで宜しく願いたい。

なお、交通費は各自持ちとするが、現地の視察費が掛かる場合は、調査の一環として連合会が持つこととする。

(2) 平成27年度アンケート調査各種について

○ 木質チップ等生産会員実態調査、木質バイオマス需要調査(事務局 椎津)

- ・19年度から実施しているが、何か意見があれば願いたい。長い間続けているので、基本的に変更はしない方向で行きたい。同じ様式を使用する予定。
- ・今年度も7月中に対象企業に送りたい。
- ・木質チップ等生産会員実態調査は会社名を記名、需要調査は、無記名なので企業名はない。

- ・添付されている26年度需要調査対象企業一覧表について、追加すべき企業、訂正すべき企業があれば7月17日（金）までに、教えていただき、27年度調査として実施する。

(3) 地域別木質チップ市場価格（原 事務局長）

- ・今年度から、新たな調査方法に変更して、4月分を6月にホームページに公表することとしている。（次回は10月分が対象、年2回調査）
- ・変更内容は、B・C区分とD区分であったものをB区分、C・D区分に区分変えたこと、単位の表記を、「チップ工場渡し」と入れたこと、地域区分で中四国を中国と四国に分けたこと、取引単位をサーマル用はADT、マテリアル用はBDTとなっていたところを原案ではADW、BDWとしたが、協議の末、一般に見ない表記なのでADkg、BDkgに変更することとした。なお、AD、BDの意味はエアードライ、ボールドライである。
- ・修正した結果を、明日（6月19日）ホームページに掲載する。

(4) 広報物の作成について

ア パンフレットの改訂について（原 事務局長）

連合会の組織がわかりにくいので組織図を入れたこと、国交省の建設発生木材の発生量、再資源化率を表示し、併せて連合会の取扱量を掲載した。なお、木質チップの用途別利用内訳は日本繊維板工業会の2008年の資料しかないので代わりになる新しいデータがあればご教示いただきたい。また、間伐材や剪定材がほとんど使われていないこと、木質リサイクルチップの品質規格、木質バイオマスエネルギー利用推進協議会の品質規格を掲載した内容で案を作成した。8月18日の次回委員会に確定版を提示したいので、それまでにご意見があればお寄せいただきたい。

イ ホームページの修正（事務局 椎津）

会員事業者、関係事業者の所在地をマップとして掲載しているが、入れ替わりなどあるので、最新データに改訂したいとして各協会に協力を求めた。

関係事業者、ユーザー企業（燃料利用、製紙利用、ボード利用）の入れ替えを定期的に修正することが大変であり、関係事業者をあえて載せる必要はないとの意見が多数の委員から出され、結論として会員企業のみを地図上に表記することに変更となった。

(5) その他

ア 木質チップの実態調査に係るサンプリング方法（事務局 十川）

サンプリング方法を説明した。

今年度は各協会1件ずつお願いしたいので、検体を採取したら、その旨を連合会にご連絡いただき、並行して、環境分析会社に宅急便で送っていただきたい。

なお、費用は連合会で負担することとしている。

イ エコプロダクツ2015参加について（原 事務局長）

本年は12月10日（木）～12日（土）に東京ビッグサイトで開催されるが、連合会として今年も参加するので、現地でのお手伝い等宜しくお願ひしたい。

（委員長）：次回開催は、8月18日（火）11時（～13時）開催（場所未定）とする。

閉会： 14：45

以 上（文責 澤地）